

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

先人たちの声

社会医療法人北九州病院 介護老人保健施設

あけぼの苑

入所85名
北九州市小倉南区大字湯川139-21

2001年に併設の病院とともに開設。安部山の豊かな自然の中に位置しており、生活リハビリを中心に居宅介護支援事業者などと連携し家庭復帰に向けた支援を行っている。



介護主任
河津さん



北九州モデル導入の主な取組内容

項目	腰痛予防	早朝業務	コール対応
問題・課題	腰痛持ちの職員が多い	夜勤者の業務の負担が大きい	コール対応に追われる
取組	・先進的な取組をしている他施設や介護実習・普及センターを見学 ・研修等により移乗方法を統一	利用者が夜間帯に使用する排泄ケア用品の適合を再評価し、使用物品の見直しを行った	・コール回数を計測し、現状を確認 ・ネット環境の整備や見守りセンサー、インカムの導入を検討した
効果	・職員の意識が向上し、移乗支援用具の導入に向けた予定が定まった ・腰痛を訴える職員の増加が見られなくなった	夜勤帯の失禁が減少し、職員の介助負担が2割軽減した	—

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

以前に比べて入所者の介護度が上がり、それに伴う業務量の増加等によって職員の身体的な負担が増え、腰を痛めることも多くなっていました。そこで、このままでは職員も利用者も苦しい状況になると思い、**その打開策として介護テクノロジーの導入や業務改善が必要**であると考え、北九州モデルに取り組むことにしました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは会議の場を活用して、**管理職から各現場リーダーへ取組の目的や内容を説明し、理解と同意を得ました。**そのうえで、**リーダーやプロジェクトメンバーを中心に現場職員へ説明し、施設全体で目的を共有して取組を進めていきました。**その結果、取組を進める上で負担は生じましたが、不満等なく、協力して遂行することができました。

3 取組にあたり壁になったことは？

業務を変更したり新しいことを始めると、**開始時はどうしても職員の負担が増えてしまいました。**しかし、「**なぜそれを行うのか」「どうしてこれが必要なのか**」を**効果も含め説明**することで、壁を乗り越えながら取組を進めることができました。また、少しでも負担を軽くするため、**分かりやすい画像付きの手順書を作成する**などの工夫をしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

身体的負担の増加や業務圧迫といった施設の問題を**全員で把握し、施設全体で解決に取り組む良い契機**となりました。また、アンケート調査や業務量調査を通じて、**現状を見える化でき、課題を明確にすることができました。**そして何より、**改善の効果を実感することができました。**

5 新たな取組など、今後の方針は？

特殊浴槽を活用し、職員の負担軽減はもちろん、入浴ケアの質向上を進めていく予定です。また、**ノーリフティング委員会を発足し、腰痛予防を図りながら、抱え上げない利用者に優しいケアを実現させたい**と思います。加えて**インカムを導入して、職員間の情報共有をより円滑化**することを目指しています。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

改善活動を進めると、最初は負担が増えますので、**取り組むこと自体躊躇してしまうか**と思います。ですが、その負担は現状の課題を解決させるための**「将来の投資」**になりますので、まずは**取り組んでいただきたい**と思います。時には**うまくいかないこともあるでしょうが、それも次へとつながる大事な結果**ですので、**将来のためにぜひ頑張ってください。**